

北星学園大学

# 後援会だより

## VOL.119

発行日 2014年12月1日  
 発行者 北星学園大学  
 後援会事務局  
 札幌市厚別区大谷地西2  
 丁目3番1号 〒004-8631  
 電話(011)891-2731  
 印刷(社)北海道リハビリ



## 父母懇談会報告

### 地区別 地区別父母懇談会が終了!

後援会の一大事業でもあります地区別父母懇談会が、今年も道内7ヶ所で行われ、10月25日に行われた第2回札幌地区をもちまして、無事終了いたしました。

今年度は、全会場合計で450組近くの申し込みがあり、前年度に引き続き多くの方々にご参加いただきました。全体会では大学の近況報告、修学関係についての説明があり、ご父母の皆様が強く関心をお持ちの就職状況について報告がありました。また、地方会場での個別懇談までの待ち時間では、ご父母同士での情報交換やご懇談ができる良い機会となった他、就職支援課による個別相談にもご参加いただきました。参加されたご父母の皆様からは、成績・就職関係はもちろんのことですが、特に離れて暮らされている方にとって、普段の大学生活について知る機会となり、大変参考になったという声が多くありました。



個別懇談の様子(帯広)

#### 【ご父母からの感想】

今回、初めて懇談会に参加させていただきました。就職状況がわかり、そのサポートにあたっての方の熱意に触れて、この大学に入れて本当に良かったなと思いました。

(7月札幌)

同じテーブルの方々から、学生や学校のことなど、食事をいただきながらお話を伺うことができ、遠く離れていますが大学が身近に感じられました。このような機会を設けていただいております。

(8月北見)

とても丁寧に学校のことをお話しください、些細なことにもお答えいただき、子どもの様子を知ることができました。

(8月旭川)



全体会の様子(10月札幌)

初めて参加させていただきましたが、とても良かったです。子どものことで心配事がありました。先生に話を聞いてもらい、本當に参考になりました。

(9月釧路)

初めての出席でどのようなことが行われるか不安な思いもありましたが、和やかな雰囲気良かったです。子どもの将来について、いろいろ知らないことやわからないことを説明していただき、安心することができました。今後も参加させていただきたいと思っております。

(9月帯広)

毎年出席させていただいております。就職について聞きたいことがたくさんありましたので、勉強になりました。

(9月函館)

1年生で日頃わからなかった事が詳しく聞けて良かったです。とても心強く感じました。来年も出席しようと思っております。

(9月苫小牧)

大学の全体説明を受け、とても良かったと思っています。全部子どもに任せきりだったので、共通の話題が出来たと思います。成績の判定の説明などもとても勉強になりました。

(10月札幌)

## 卒業記念祝賀会のご案内

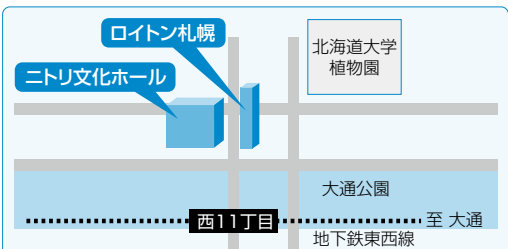
2014年度卒業式・卒業記念祝賀会が下記のとおり举行されますので、ご案内いたします。ご父母の方も是非ご出席ください。

### 卒業式

日時：2015年3月13日(金)  
 全学部 13:00予定  
 場所：ニトリ文化ホール  
 (札幌市中央区北1条西12丁目)

### 卒業記念祝賀会

日時：2015年3月13日(金)  
 全学部 16:30予定  
 場所：ホテルロイトン札幌  
 (札幌市中央区北1条西11丁目)



星学祭を終えて  
 第53回大学祭実行委員会  
 委員長  
 藤田 岳

今年度の星学祭は天候にも恵まれ、関係者の方々の多大なご支援と協力のおかげで大盛況のうちに無事終了することができました。今年度は新たな取り組みとして大学祭実行委員会から子供向けの模擬店の出店、北乃カムイ・HTBとのコラボイベントを実施し、今までにない星学祭を作り上げました。また、今年のアイピエの2組にお越しいただき、チケットがわずかに2時間で完売する人気ぶりでした。その結果、2日間を通して4000名を超える幅広い世代の方々にご来場していただきました。主催者側としては、お子様連れのお客様を多く目にするのができ、今後も星学祭が地域の恒例行事の一つとなるよう邁進していきたく強く感じる2日間になりました。

今年度のスローガンは「Share moments, Share life」でした。星学祭を通じて多くの人々がつながり、喜びや感動を皆様で共有していただきたいと思います。このスローガンを採用いたします。

最後になりましたが、貴会からも「北星学園大学のサポーター」として、ご協力いただいたことに、厚く御礼申し上げます。そして、今後とも皆様にとってより良い思い出となるような星学祭にするために、私たち大学祭実行委員会一同努力してまいりますので、来年度以降も皆様のご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。



大盛況となったもちまき



内定先：北海道警察

経済学部  
経済法学科  
木村 拓真

私は中学生のときから教師が警察官になりたいと思っていました。勉強は3年生の6月から始まった学内公務員講座からやり始め、11月からは学内教員採用講座が始まり両方受講していました。

筆記試験は勉強するしかないと思っていましたが、私は勉強が大嫌いで集中力も持続しないので、講座のときに一つでも多く覚えるように努力していました。

私が就職活動を経験して感じたことが二つあります。一つ目は、今までの自身の行動には必ず理由があったということです。部活動に入部したときや大学進学先を決めたときなど、何か行動するときには必ず理由があるはずなんです。その理由を突き詰めていくことが自分を知ることで、自己分析につながるのです。自分自身の行動に対して、なぜなぜ？と問いかけをし、自分自身と向き合うことが就職活動



内定先：株式会社みずほ銀行

文学部  
心理・応用コミュニケーション学科  
豊田 樹理

また、講義がないときには図書館で勉強してました。ときには友達と遊んだりして息抜きをすることが大切だと思います。面接試験は、年々重要度が増していますが、個人的には練習をやりすぎないことをオススメします。自分の思いを自分の言葉で話すことが大切だと思うからです。私自身、教育実習と面接試験が被ってしまい、自衛隊の試験を受ける前に自衛官の方と3回ほど練習しただけであとは面接練習をしないまま本番を迎えました。うまく答えられた自信はありますが、うまく対応出来た自信はありません。面接試験は少し黙ったり、囁んだりしても熱意が面接官に伝われば合格できま

また、講義がないときには図書館で勉強してました。ときには友達と遊んだりして息抜きをすることが大切だと思います。面接試験は、年々重要度が増していますが、個人的には練習をやりすぎないことをオススメします。自分の思いを自分の言葉で話すことが大切だと思うからです。私自身、教育実習と面接試験が被ってしまい、自衛隊の試験を受ける前に自衛官の方と3回ほど練習しただけであとは面接練習をしないまま本番を迎えました。うまく答えられた自信はありますが、うまく対応出来た自信はありません。面接試験は少し黙ったり、囁んだりしても熱意が面接官に伝われば合格できま

公務員試験を受けるにあたって、私は数多くの試験を受けることが大切だと思います。数多くの試験を受けることにより、試験の雰囲気ばかりならずし、将来の選択肢も増えます。また、本命の試験のときに緊張しないで臨めます。公務員試験は勉強など大変なことが多いと思いますが、それを乗り越えられたら結果はついてくると思います。最後まであきらめず一生懸命頑張ってください。



内定先：宮城建設工業株式会社

短期大学部  
生活創造学科  
参納 早希

就職活動は、これまでの学生生活の中では経験したことのない、企業に対して自分を売り込む活動でもあります。その中でも、元々自己主張があまり得意ではない私にとって、面接はとて

全国的に景気は回復傾向で就職活動も学生にとっては追い風との見方もありますが、企業はそんな簡単に内定は出しません。苦労して内定を手にした学生の体験談をご紹介しますので、これから就職活動を迎えるお子様にとって貴重なアドバイスとなります。是非参考してみてください。

# 就職活動体験談



内定先：リコージャパン株式会社

社会福祉学部  
福祉心理学科  
小玉 昇平

不安なものでした。そこで受ける企業が決まってきたら就職支援課に何度も通い、面接練習を繰り返していきました。自分の考えてきた答えに対してダメ出しをされたり、思うように話せなかったりと落ち込むことも多くありましたが、練習と本番をこなしていくうちに、少しずつ自然体で面接に臨むことが出来るようになってきました。内定を貰えるその時までには、1年後の自分がどこで何をしているのか全く予想がつかず、不安な気持ちで毎日を過ごすという時期もありました。また、周りの友人や知人の内定報告が多くなると、さらに不安と焦りの気持ちが強まりました。しかし、就職活動は各個人のペースがあり、早く

自分の行動を振り返り、反省し次に活かすことが大切で、何もしたくないと落ち込んでいたよりも、たくさん経験し、たくさん恥をかいた方がよっぽど自分自身の力となります。ぜひ、最後まであきらめずに自分自身と向き合い、考え続け続けてほしいと思います。

決まれば良い、遅ければ悪いというものではないと考え、焦らずに自分のペースで進めることを日々心がけました。私が就職活動を通して学んだことは「めげない心」を持ち、前向きに物事を捉えるということです。就職活動そのものは、諦めずに挑戦し続ければ内定を貰うことで終わりが来ます。しかし、内定を貰ったから終わりという訳ではなく、社会に出てからがまた新たなスタートであると感じています。これから先、辛いことや壁にぶつかった時に、「諦めずに挑戦し続けた」という経験は必ず自分の自信にも繋がると思います。私自身もその経験から多くを学び、成長することが出来ました。



各国留学生とのインターナショナルキャンプ (洞爺湖観光)

## EASCOM

2014年度

### 東アジア学生交流プログラム報告

学内の国際交流行事であります東アジア学生交流プログラム(EASCOM)が今年も10月22日から11月1日までの日程で開催されました。このプログラムは、本学国際交流30周年を機に、1995年、本学の教育交流協定校である中国の大連外国語大学の学生を招へいたことからはスタートしました。現在は韓国のカトリック大学校、台湾の東海大学の日本語学科の学生たち総勢15名をキャンパスに招いて実施しており、大連外国語大学においては今回20回目の招へいとなりました。

企画は、本学学生による実行委員会がプログラムを検討、実施しています。今年度は、田村学長への訪問挨拶から始まり、「日本の文化」特別講義を受講、本学の授業参加やゼミとの交流、サミット(ディスカッション)、札幌市防災センターにて震災を学ぶ研修、小学校訪問、日本の昔遊び体験、ヨサコイ体験などが企画され、来学した学生たちは本学の授業や日本文化などを学ぶことができたと思います。また、恒例となった「アジア屋台」では、各国の料理やデザートが格安で販売され、学生や教職員の昼食に好評でした。また、インターナショナルキャンパスは、札幌・小樽・ニセコ方面に1泊2日で旅行し、能舞台体験や洞爺湖観光などしながら、各国の学生たちは交流を深めていきました。

当プログラムは昨今のアジア各国の政治情勢が難しい状況なかで、重要な意味ある活動となっております。後援会様のご高配とご支援に感謝申し上げます。

学生支援課国際教育担当課長 川島 善孝



華道を体験!

# 学術出版の紹介

## 「報道の正義、社会の正義—現場から問うマスコミ倫理」 (2013年12月 花伝社)

文学部教授 阪井 宏

今日ほどメディア倫理が厳しく問われている時代はない。国内でいえば、プライバシーと匿名・実名報道など、国民の知る権利と個々の人権にかかわる問題。出生前診断や脳死など命の倫理にまつわる問題。そして東日本大震災以降の一連の原発事故報道の在り方…。どれをとっても正解を見いだすのは容易ではない。



一方、海外でも状況は日本と変わらない。米国における9・11以降の熱烈な愛国報道は、「大量破壊兵器の存在」という偽りの政府発表を垂れ流し、イラク市民の大量殺戮を後押しした。ほかに米有力紙による相次ぐ記事ねつ造問題、英国大衆紙による大規模盗聴疑惑など、倫理感覚がマヒしたかのような報告が相次いでいる。

さまざまな問題が噴き出すに当たって、新聞、テレビを中心とする従来メディアに対する人々の不満、不信は高まるばかりである。ところが一方で、ウェブの世界もまた、無責任な匿名情報が氾濫し、匿名性を犯罪に利用する連中が後を絶たない。

現状はまさに「情報危機の時代」である。近年の民主主義社会は正確な情報への信頼感に支えられてきた。そのことを考えると、今日の情報危機はまさに民主主義の危機そのものといえる。

このような時代にあって、情報を発信する側、受信する側の双方に不可欠な倫理感覚とは何か。この難題への答えを具体的な事例の中から探り、我々が守るべき倫理的指針を提示するのが本書の目的である。各章は、本学の4年ゼミ生を対象に行った講義録、共同通信元論説主幹の原寿雄氏とのディスカッション、現場の一線での活躍経験があるジャーナリストたちへのインタビューの3本柱で構成した。幸いにも大学後援会の出版助成をいただくことができ、価格をかなり抑えることができた。

「倫理」というと近づきたい印象を与えがちだが、豊富な事例をもとに考察を深めるといふスタイルをとることで、多少なりとも読者の抵抗感を薄められたらうれしい。なお本書の続編は来年1月に発行する予定である。

## 「長崎方言からみた語音調の構造」

(2014年2月 株式会社 ひつじ書房)

文学部准教授 松浦 年男

「箸」と「橋」と「端」はどれも「ハシ」ですが、北海道の多くの方言や標準語では声の上げ下げによって3つの単語を区別しています。この単語ごとに決まっている声の上げ下げを本書では「語音調」と呼んでいます(いわゆる「アクセント」とほぼ同じです)。さて、日本語にはいくつの単語があるのでしょうか。手元の中型辞書を見ると収録語数は8万語以上とあります。では私達はこれら8万語全てのひとつひとつについて語音調を覚えているのでしょうか。もちろん上にあるような3つの「ハシ」は個別に覚えているのですが、この8万語には「マチュール(油絵の具を塗ったときの表面の光沢、感触)」や「撮要(要点をまとめて書いた本)」のように、少なくとも私にとっては耳慣れない単語も多く含まれていることから、何らかの規則があってそれを覚えていることは間違いないでしょう。そこで本書では長崎方言を対象に、同方言の語音調にどのような規則性が見られるのかを明らかにすべく、外来語(例: ランドセル、ナイチンゲール)、複合語(伊勢物語、メロン泥棒)、人名(直子、直美)、アルファベット頭文字語(OL、PC)など幅広い語種を対象に方言話者への聞き取り調査を行い、一般化を提示しました。そして、その結果を東京方言(標準語)と対照することによって、規則の形で音韻過程(脳内でどのような形で覚え、それがどのように実際に発音されるかまでのプロセス)を記述しました。ひとつの方言を対象にこのような様々な語種の語音調を記述し、音韻過程を提案するという研究はほとんど行われておらず、その点で本書は他に見られない価値があると自負しております。そのこともあり、本書に対しては、第42回金田一京助博士記念賞の受賞が決まりました。このように本を出版し、名誉ある賞を受賞することができたのは、出版に際し大学後援会より出版助成をいただいたからに他ありません。心より感謝申し上げます。



## フィリピンからの大学生訪問団 北星学園大学キャンパスへ

学生支援課国際教育担当課長 川島 善孝

去る10月2日、フィリピンの大学生28名と引率者2名を本学キャンパスに受け入れました。このプログラムは、安倍総理が発表したアジア大洋州諸国の青少年交流事業で来日した海外の大学生を受け入れたものです。

日本の大学のキャンパスを体験!ということ、まずは一番本学らしい場所、チャペルにおいて、田村学長から歓迎の挨拶と訪問団のパフォーマンスが行われ、笑顔と美声が印象的な舞いと歌が披露されました。その後、本学学生およそ50名が4つのグループに分かれ、それぞれのテーマにそって英語でディスカッションを行いました。つづいて、文学部の柳町教授、長谷川教授、社会福祉学部の西原専任講師の3つの授業に訪問団は分かれ、授業参加しました。

プログラムの最後は本学の学食にて、カレーライスなど食べていただき、日本の大学の学食体験をしていただきました。学生たちは同世代ということもあり、目を輝かせて交流を楽しみ、学生レポートにあるとおり、それぞれに得るものがあつたと思います。



本学チャペルにて

### ～フィリピン学生と交流を通じて～

文学部英文学科 野口 詩織

私は英会話サークルHOKUSESSのメンバーとして、10月2日にフィリピンから来た大学生と交流会をさせていただきました。互いの国の文化や生活について話し合い、活気に満ちた交流会となりました。

フィリピンの大学生はホームステイのプログラムを控えていたので、日本の家族関係が話題に上がりました。家庭内でも空気を読んで気配りをする日本の文化に興味深いと話してくれました。

フィリピンの学生からはビーチで過ごす暑い夏や名物のウベアイスについて教えてもらい、心が通じ合う喜びを感じられた貴重な時間となりました。また、日々鍛えてきた英語を使ってディスカッションを進められたことも嬉しく、英語で自由に話せるようになりたいという思いが一層強まりました。

今回の交流会を通して、日本で学ぶ自身が「日本の魅力」となるために客観的な視点から自分の文化を見つめることが大切であると改めて思いました。フィリピンの学生の積極性や温かさに触れて、これまで見逃していたものが日常の中から浮き上がってくるように感じます。

国や文化の違いを越えて人々が楽しさや感動を共有できる社会をつくるために、これからも色々な人の考え方に触れて成長していきたいです。



交流を深めた学生たち

文学部英文学科 石山 彩奈

私は、所属している応用言語学ゼミでフィリピンの学生と交流しました。フィリピン学生の訪問に備えて、後期が始まってから文献を読み、フィリピンの言語状況について学んでいたこともあり、非常に中身のある交流ができたことに満足しています。トライリンガルの存在も珍しくはないフィリピンの言語状況

について、現地の学生から聞いたことがとても興味深く、勉強になりました。例えば、流暢な英語を話せるのに、フィリピンの学生間では国語であるタガログ語を話している光景には驚きました。また、「英語教育の重要性を訴える啓発運動などはしないのか」といった質問をされ、言語に対する意識が日本人のものとは全く違うことを実感しました。

フィリピンの学生は、みんなとても明るく、会話も弾んだので、打ち解けるのに時間は全くかかりませんでした。交流時間が午前中とお昼ご飯だけだったのがとても残念でした。このような国際交流の場がもっと増えればいいと感じました。

# 全国大会出場報告

## 弓道部

経済学部 経済学科2年

猪早 茜

私たち弓道部は、今年の6月28日、29日に行われた第26回全国大学弓道選抜大会に出場しました。この大会は、去年の選手権と争覇戦にて最も成績の良かった大学に出場が認められる大会です。数ある大学の中から今年は北星を選ん

でいただき、東京の明治神宮で引いてきました。右も左も分からない状態で予選に望み、12射7中で予選を終了しました。例年だと予選敗退なのですが、今年はず選通過の上位16チーム中15チームが決勝トーナメント進出を決めていて、残り



試合後、会場前にて

とても悔しいものですが、去年2部に所属していた北星がこのような名誉ある大会に出場できたのは後援会のご支援があったことだと弓道部一同感じております。これからも勝利を目指して日々努力して参りますので、今後ともご支援よろしくお願ひします。

## 軟式庭球部

経済学部 経済学科1年

金子 もも

私たち軟式庭球部の宮間・高杉組、杉本・金子組は、今年6月に開催された北海道学生ソフトテニス大会に出場し、共にベスト16入りを果たして、同年8月に熊本県で開催された全日本学生ソフトテニス選手権に出場しました。台風が丁度九州に直撃しており、大会が中止になってしまいましたが、無事に開催されました。九州という地の慣れない猛



大会終了後会場にて

暑ということや、全国大会という北海道予選とは違う独特の雰囲気や圧迫感に倒された結果に終わった私たちは、1回戦敗退という結果に終わって

しましました。しかし、得たものは大きく、次の大会に向けて修正すべき点が多く見つかった大会となりました。翌9月に行われた北海道ソフトテニス新人選手権では、杉本・金子組が3位に入賞し、全国大会での経験で得たものを発揮できた大会となりました。しかし、この結果だけでは満足せずさらなる結果を目指して、日々の練習に取り組んでいきたいと思ひます。こうして全国大会出場という貴重な経験ができたのも、後援会の御支援があったことだと思ひます。来年また全国大会に出場できるように部員一同頑張ります。引き続きの御支援よろしくお願ひいたします。

## 北星学園大学からの報告

### ◆池澤夏樹講演会開催される

去る10月11日(土)、池澤夏樹さん(小説家・詩人)による講演会が開催されました。今回のテーマは「原発と平和の在り方について」ということで、近年議論が活発に行われている原発と平和の在り方についてお話をいただきました。日本人の持つ性質や戦争、平和をどのように保つのか、非常に考え深いお話で、お越しいただいた方々も熱心に耳を傾けていました。次年度も著名人をお招きしての講演会を企画しますので、是非皆さんお誘い合わせの上、ご参加いただけたらと思ひます。



池澤夏樹氏

### ◆オータムコンサート開催される

去る10月26日(日)、石川祐支さん(チェロ)と大平由美子さん(ピアノ)によるオータムコンサートが開催されました。当日は約220名の聴衆があり、「愛の挨拶」「ノクターン」「ヴォカリーズ」「コル・ド・ラライ」などが順次演奏されました。チャペルに響く美しい音色に、会場内はあつという間に魅了されていました。曲の合間には、お二人からのお話もあり、穏やかな癒しの時間となりました。

大学では、大学後援会、同窓会と協力して今後も皆様に楽しみにしていただける企画を開催していきたいと思っております。

### ◆クリスマスチャペルコンサート開催のお知らせ

日時：12月7日(日) 午後2時から  
会場：本校チャペル(参加無料)  
出演者：駒ヶ嶺ゆかりさん(メソソプラノ) 作間令子さん(ピアノ)  
『F. シューベルト「冬の旅」全曲』と題して、チャペルコンサートを行います。F. シューベルトの歩んだ孤独と絶望の道を「冬の旅」全24曲で迎えます。死の前年(1827年)の作品でありながら、生きていることの輝きが伝わるでしょう。どうぞお楽しみください。

## スミス・ミッションセンターからのお知らせ

### チャペル・クリスマスイベント 2014

#### 【クリスマスツリー点灯式】

日時：12月1日(月) 18:00~18:30  
会場：B館玄関前(チャペル横)  
演奏：チャペル・クワイア、NSBC(ゴスペル)

#### 【クリスマスチャペルコンサート】

日時：12月17日(水) 12:10~  
会場：北星学園大学チャペル  
演奏：ナイト de ライト(ロックバンド)  
曲目：クリスマスメロディー

#### 【クリスマス礼拝(キャンドルサービス)・祝会】

【礼拝】  
日時：12月19日(金) 16:30~17:50  
会場：北星学園大学チャペル  
メッセージ：三橋恵理哉(札幌キリスト福音館牧師)  
司式：日高嘉彦(チャペレン)  
奏楽：米本悦子(オルガニスト)  
演奏：チャペル・クワイア、ハンドベル・クワイア、NSBC(ゴスペル)

#### 【祝会】

日時：12月19日(金) 18:00~  
会場：大会会館3階東側ホール  
内容：チャペル・クワイア、NSBC(ゴスペル)、アカペラサークル ほか、演奏、ピースメイキングサークルの演奏、ピニャタ割ゲーム、軽食他

#### 【ハンドベル・クワイア クリスマスチャペルコンサート】

日時：12月23日(火・祝) 14:00~  
会場：北星学園大学チャペル  
演奏：ハンドベル・クワイア(本学生・OG)

ともに入場無料・申込不要です。  
お問い合わせ：総務課 011-891-2731  
(内線4146 担当：鈴木)まで

参加希望者は「12月7日駒ヶ嶺ゆかりクリスマスコンサート」参加希望」とお書きの上、氏名、連絡先電話番号、参加希望人数を明記し、ハガキまたは電話、FAX、Eメールでお申込ください。  
※定員に達し次第お断わりする場合がございますので、ご了承ください。



大平さん(ピアノ)、石川さん(チェロ)

### 北星学園大学教育振興寄付金ご芳名募金のご協力に深く感謝申し上げます。

2014年7月1日から10月31日まで

(敬称略)

☆大学・短期大学部	(父母・同窓生・旧教職員・理事)
高橋 明男	矢島 高橋 遼
尾坂 信次	伊藤 満博
南田 英樹	坂井 康文
大橋 省吾	山本 久
齋藤 武	田村 泰昭
高橋 勝利	神 良雄
米本 秀仁	大山 綱夫
	深澤 秀則

### あとがき

さらさら輝くイルミネーションが溢れ、冬の澄んだ空気によく映えるようになりました。季節はまもなくクリスマスを迎えようとしています。

7月から始まり、各地区で開催された地区別父母懇談会も全会場が無事に終了することができました。多くの方々にご参加いただき、各会場でご父母の皆様にお会いできましたこと、一同大変嬉しく思っております。今後よりご満足いただけるような父母懇談会を目指し、努めて参ります。

今年もあとわずかとなりました。寒さの厳しい時期でもありますが、風邪など引かぬようお体を大切に、皆様よいお年をお迎えください。  
(後援会事務局 大野)